



岐阜大学キャリア支援部門

NEWS

<https://www.orphess.gifu-u.ac.jp/career/introduction/news.html>

巻頭言

賢者になって就職を成功させよう

横田 康成

教育推進・学生支援機構 キャリア支援部門長



「愚者は経験に学び、賢者は歴史に学ぶ」という言葉があります。ドイツ初代宰相であるビスマルクが語ったとされています。ビスマルクは、「賢者は愚者に学び、愚者は賢者に学ばず」と語ったともいわれていますが、言いたかったことは同じです。多少言い方を変えて「愚者は自分自身が経験しても学べず過ちを何度も繰り返す、普通の人とは自分自身が経験して学び、賢者は他人の経験や歴史などから学ぶ」と言うことにしましょう。

自分のこれからの人生にまったく関心がない人はいないと思います。特に、就職については、一大関心事だと思います。では、就職に関し、自分にどのような選択肢があり、その先の人生について、どの程度幅広く、どの程度深く調べたことがありますか？おそらく、地方公務員になるためには、公務員試験の勉強をしないとイケない。合格し就職したら給料は安いかもしれないが倒産も首になることもなく安泰。といったくらい知識しかないのではないのでしょうか。

多くの方は、インターンシップや就職活動を通じて学び、成長します。スーツ姿も次第に似合うようになり、言葉遣いもしっかりとしてきます。これは非常に喜ばしいことだと思います。しかし、就職活動が始まってからは、すでに選択肢が狭くなり、その限られた中から選択しなければならないことが多いのです。そして、就職してから、自分のやりたかったことはこんなことではなかった、自分の向いていることはこんなことではなかったと気が付くこともあります。これは、いわゆる自分自身が経験して学んだということになりますが、もっと賢く生きるためには、他人の経験や歴史から学ぶしかありません。

就職活動、キャリア形成に関して言えば、他人の経験や歴史とは、先輩社会人の経験談や過去の就職データです。キャリア支援部門では、就職に関する過去の様々なデータをそろえていますし、それを親身になって説明してくれる専門の資格を持ったスタッフもいます。また、このニュースの次ページからは先輩社会人の体験談が掲載されていますし、別途、ご案内しますが先輩社会人と対談できる場を設けています。キャリア支援部門以外からでも、他人の経験や歴史から学ぶことができる様々な場が提供されています。他人のことだから関係ないと思わずに、自分のことだと思って関心をもてるかが賢者になれるかどうかの分岐点です。もっともっと活用し、就職、そして人生を成功させてもらいたいと願っています。

先輩社会人寄稿

就活体験記

河手 陽子

平成24年3月 地域科学部卒業



「事務職に就きたい。」私の希望はそれだけでした。世の中どんな企業があるのか深く考えもせず、己が働くという姿が想像できず、事務ならどこも一緒だろうと思っていたため、志望動機の捻出は困難を極めました。就職活動は言うまでもなく大苦戦です。エントリーシートはおろか、面接の練習を人に見てもらうことが恥ずかしくて「本当に言いたいことならその場で出てくるさ」とぶっつけ本番で挑んででは返り討ち。当然、一次面接すら突破できず連敗記録が積み重なります。

転機が訪れたのは岐阜の企業が集う合同説明会。当日にインターネットで出展一覧を見てみると、そこに昔から目にしていた地元企業が。「ここで働けたら立派なものだ。」幼き日の父との記憶が甦ります。これは行くしかない慌てて参戦、ブースに駆けつけました。採用担当者と話すうちに「地元で働きたい」という思いが湧き上がり、初めて「どうしてもこの企業で働きたい」と心の底から望み、即座に面接の約束を取り付けました。

全力を注ぎました。キャリアセンターに相談に行き、志望理由の添削をしていただきました。苦手だった面接の対策や練習にも付き合ってくださいました。本番で答えることができなかった設問は、すぐさま思いを込めて手紙をしたためました。思い返してもあれほど必死になったことはありません。

筆記試験と2回の面接を乗り越え、私は地元の金融機関に勤務しております。3年を支店の窓口業務などで過ごしたあと、3ヶ月は営業として外回り。そして現在は本部にて債券や投資信託の売買をしております。山に囲まれたこの地から、世界経済を相手に資金を運用して利益を上げる。非常にやりがいのある業務に出会って日々充実しております。

私から言えることはただひとつ。面接の練習はこれでもかというくらいやってください。練習でできないことが本番でできるわけがありません。学生生活の集大成です。持てる力を遺憾なく発揮し、より豊かな人生を目指しましょう。

これまでの社会人人生を振り返り感じること

石田 剛

平成13年3月 大学院工学研究科修了



岐阜大学を修了してから18年間が経ちました。

岐阜から東京に引っ越し、大きな期待を持って社会に飛び込み、必死になって目の前にある仕事に取組み、無我夢中だった20代。少しは自信を持って仕事に取り組むことができるようになり、仕事の進捗と重圧に立ち向かい「自分はやれる」と自分自身を鼓舞し未来を信じて突き進んだ30代。そして、42才となった私は、現在、自分が働く社会的意義・役割を意識しながら、夢をつかみ取るため、日々自己研鑽に努めています。そして、これまで支えてくれた家族、仲間、先輩、上司、先生に感謝をして、毎日を大事に過ごしています。

学生時代は、橋梁設計に興味を持ち、研究室で毎日構造解析プログラムと参考書に向き合っていました。素晴らしい先生と仲間に恵まれ、「学ぶ」楽しさを覚えました。

卒業後、橋梁メーカーに就職し、橋梁設計に従事しました。設計業務だけではなく、工場や現場に出向く機会もあり、ものづくりの現場も知ることができました。また、会社の上司、先輩、同僚にも恵まれ、その助けもあり、密度の濃いやりがいのある仕事をすることができました。その後、IT業界に飛び込み、現在は、製造業、建設業向けのICT、IoT導入のコンサルティングやシステム開発を行う会社を立ち上げ、未来に向かって走り続けています。

私たちは、人生の多くの時間を仕事に費やします。そのため、充実した人生を過ごそうと思うのであれば、やりがいのある仕事、満足できる仕事をする必要があります。

仕事のやりがいは、どのようにして得られるのでしょうか？

人からの感謝、問題解決の達成感、人との信頼関係といった様々な要素がありますが、何事も楽しいと感じる気持ちが大切だと思います。良き友人、信頼ができる相談相手の存在も大きな助けとなります。是非、大学を卒業し社会に出てからも、同級生は勿論ですが、大学の先生との関係も大切にしてください。

また、今の社会は、目まぐるしく変化・成長し、AIやIoTなどの従来になかった新しい技術・モノが次々と社会に実装されています。このような新しい技術を採用することにより、仕事における問題に対して従来とは異なるアプローチができるはずです。そして、その中には革新的な解決法も存在することもあります。

そのような解決法を発見するには異分野の情報が元になるケースもあります。専門性を活かして仕事することはとても大切ですが、広い視野を持ち、学ぶ気持ちを大切にして、多くの人と交流することで、自分の仕事の領域が広がることを忘れないでください。皆様の良い仕事との出会い、良き理解者との出会いを心よりお祈りしております。

平成30年度基盤的能力を育成する学生支援プロジェクト事業の採択について

5月から6月にかけて学生支援プロジェクト事業の募集を行い、6月のキャリア支援部門会議で支援するプロジェクトを決定しました。その採択決定した4つのプロジェクトの通知書交付式を6月28日(木)にキャリア支援部門(大学会館1階)で行いました。今年度末までの約1年間の活動になります。

学生ボラネットによる放課後の過ごし方に対する支援活動

(教育・竹中有希 ほか8名)

のむゼミ ~月イチソーシャルLAB~ (医看・野村奈々子 ほか2名)

応生ツイッターで青色に染めよう (応生・PARK JUNWOO ほか3名)

動画配信サイトを用いた身近な生き物についての情報発信

(応生・西村友希 ほか7名)



4つのプロジェクト代表者

この支援プロジェクトは、学生の基盤的能力(「考える力」「伝える力」「進める力」)の育成を目的に、魅力ある独創的なプロジェクトを支援するもので、8年目を迎えました。

毎年3件ほど(支援額は、1件当たり上限10万円)の学生団体(1団体3名以上)のプロジェクトを支援してきています。来年度応募してみたいと思われ方、また、興味のある方は大学のHPで過去の採択プロジェクトをご覧ください。



学生ボラネットに所属して

こんにちは。私は在学中、学生ボラネットに所属していました岩田知之です。皆さんはボランティアと言われてどんなことを考えますか?私は、ボランティアとは様々な人と繋がりを持ち、自分の視野を広げるきっかけを与えてくれる場所だと考えています。私が所属していた学生ボラネットでは、ボランティアへ実際に参加する他、岐阜大学生に対してボランティア活動の紹介を行っています。今回は学生ボラネットにて行う活動の中で、特に印象深かった柳ヶ瀬ハロウィンでのボランティア活動について紹介します。

柳ヶ瀬ハロウィンとは、岐阜駅近くの柳ヶ瀬商店街にて毎年行われている地域おこしのイベントです。このボランティアは、当日のイベントに向けてボランティアと商店街の人々が共に企画から関わり、当日に向けて準備を進めていくというものでした。参加者は中学生から社会人まで多岐にわたり、それぞれが当日やりたい事を出し合い、半年前から準備を進めていきました。当時、大学1年生であった私は、何かやってみたいことが見つければ良いなと軽い気持ちで参加しました。そしてボランティアでの体験を通して、人と関わり自分の視野を広げ、企画を行う楽しさを知ることができました。

この他にも学生ボラネットでの活動を通して、様々な人と関わり、視野を広げていく事で、将来自分はどんなことをしたいのか考えることができました。何をやってみたいかわからず悩んでいる人はぜひ学生ボラネット(大学会館1階キャリアセンターの中)まで足を運んでみて下さい。

(学生ボラネットのメールアドレス: info_vol@gifu-u.ac.jp)

岩田 知之

平成30年3月工学部卒業



学生の学内清掃活動

「現代社会とボランティア・地域活動」の授業の学生の持ち込み企画から、7月11日(水)3時限目の授業のときに大学構内の清掃活動を行いました。当初の計画では、「春のクリーンキャンパス」に併せて行う計画でしたが、今年はいにく天候の悪い日が続く、順延されたものの中止となり予定通りには行うことができませんでした。



工学部前の清掃

当日は、本学職員の協力を得て、構内を6グループに分かれて清掃しました。案内板のクモの巣とり、構内のゴミの収集、落ち葉の回収などを主に行い、ゴミの中には、骨の折れた傘や空き缶なども多くありました。気温が高い中汗を流しながら、慣れない手つきで日頃使うことのない「竹ぼうき」を使い「竹み」に集めていく。これからボランティア活動を重ねていく中で、今回の汗まみれの体験が社会に出てからも役立つときがきつとくると感じました。

「岐阜大学長期インターンシッププログラム」

(Gifu University Long-term Internship Program : GULIP) について

岐阜大学 教育推進・学生支援機構 白村 直也

「岐阜大学長期インターンシッププログラム」とは、文部科学省の産業界ニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業「中部圏の地域・産業界との連携を通じた教育改革力の強化」により、2012年度に岐阜大学が採択された教育プログラムである。

2013年度は約半年間、パイロットスタディとしてPBL型 (Project-Based Learning, チームで課題を解決する) の教育プログラムを実施し、2014年度からは、新たに全学共通教育でのキャリア形成科目「プロジェクト型インターンシップ」として単位認定され、毎年実施されている半期の授業である。

「長期インターンシップ」と銘打ってはいるが、このプログラムはインターンシップ先への継続的な通いを原則とせず、おおよそ後期の授業時間を利用して3 - 5日間程度、行政機関や民間企業での研修に従事させて頂くものである。その過程で、受入先の行政機関や企業より与えられた「課題」の解決に向けたグループワークを実施する。

年明け1月に行政機関や企業のご担当様をお招きし、最終発表 (プレゼン) を実施、課題に対する具体的提案を行うというのがこの長期インターンシッププログラムである。

本年度は障がい者の就労支援を行っている一般社団法人サステナブル・サポート様にインターンシップ受け入れを依頼し、お受け頂いた。まずはこの場を借りて心からお礼申し上げたい。ここでは、インターンシップに参加した学生2名から授業を振り返っての感想が寄せられたので紹介したい。

インターンシップを終えて

■教育学部2年 中村 日乃

まず、今回のインターンシップに参加したのは、自分の専門的に学んでいる分野での視野を広げ、より今の社会と結びつけた学びがしたいと思ったからである。その点において、今回のインターンシップが私の強みとなったことは確かであり、大変だと感じる部分も多くあったが、それ以上に参加してよかったと思っている。

インターンシップで学んだことのうち、大きな割合を占めるのが、自分の考えの内容の薄さと、それを他人に伝え理解してもらうことの難しさである。今回はプロジェクト型のインターンシップであったため、自分たちでプロジェクトを立ち上げることが目的であった。そのプロジェクトの協力を得るため企業の方に交渉に行った際、自分たちが考えたプロジェクトの内容がいかに詰めて考えてないのか、また自分の思いが伝えないもどかしさを実感した。また、社会で働くということは、ほとんどの企業が利益を目的として動くため、内容の詰まっていないプロジェクトに協力をすることはできないのだと痛感させられた。内容を練って、協力を得た後、その経緯があったからこそこのプロジェクトの完成させることの責任の重さを感じた。

授業の枠内で行われたインターンシップのため、プロジェクトの引き継ぎが終わり、直接関わることはなくなった。しかし、自分が経験したことや学んだことは、今後の大学生活の中で、また将来において重要なものになるに違いない。そして、その学びや経験を自分の力とし新たな考えを広げていきたい。

最後に、多くの企業、施設の方々や共に学んだ仲間、先生の協力や支援があったからこそ、自分の成長となるインターンシップにできたことを忘れてはならないと強く思う。

教育学部2年 匿名希望

私はGULIPに参加し、多くのことを学ばせていただきました。その中で特に重要であったと感じたのはコミュニケーションです。受け入れ先のノックス岐阜様をはじめ、大学外の方と話し合う機会が多かったですが、社会には多様な考え方があると感じました。双方の考えにずれ違いがある中で、学生の考えを話すには工夫が必要であり、これはとても貴重な経験でした。社会にある価値観を見極め、大学がそれらに対して、今以上に発言をしていく現場になっていくと良いと思います。また、GULIPを通して、世界では多くの新しい試みがなされていることに気づきました。岐阜大学ではCOC、COCプラス事業を行っていることを知りましたが、本大学周辺は都市と比べると人口が少なく、試行段階にある多様なサービスに関わる機会は少ないのではないかと思います。しかし、現在は膨大な量の情報を多くの方とインターネット上でやりとりすることが出来ますし、今後はさらに伝える情報の速度は速く、複雑な形になっていくでしょう。今回のインターンシップでは、主に岐阜市内の企業、事業所様のご協力を得ました。大学の土地柄、直接対面して話す機会は少ないかもしれませんが、今後はそのような時代性を活かしていきたいと思います。様々な分野の最先端を知り、総合的に考え、より良いものへと価値観のアップデートをしていけたらいいと思います。今回のGULIPで学んだことをこれから専門の勉強で生かしていきたいです。

最後に、同じインターンシップに参加した皆さまと、地域協学センター、キャリアセンターなどGULIP関係者さま、ご協力いただきました岐阜市諸団体の皆さまに感謝申し上げます。



キャリア支援部門ニュース編集委員

委員長・横田 康成
(キャリア支援部門長・(工)教授)委員・吉田 敏
(キャリア支援部門副部門長・特任教授)委員・白村 直也
(キャリア支援部門・特任助教)委員・正村 隆弘
(学生支援課課長補佐・就職支援室長)委員・五味 進司
(キャリア支援部門事務担当)

●岐阜大学教育推進・学生支援機構キャリア支援部門●

〒501-1193 岐阜市柳戸1-1

キャリア形成支援
TEL 058-293-3393

career@gifu-u.ac.jp

就職支援
TEL 058-293-2147・3362

job@gifu-u.ac.jp

イノベーション創出若手人材養成
TEL 058-293-3492

career@gifu-u.ac.jp

